

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
1	教育	西村 勝志	社会共創学部	松山東高校での講演「地域社会の持続可能な発展に向けて」 ー今、なぜグローバル人材が求められているのかー	2021年5月6日、松山東高等学校の生徒360名を対象に、グローバル化の進展の下、地域社会が持続可能な発展を実現するためには、地域社会においてどのような人材が求められるのかを主題として、講演を行いました。今日、グローバル化の進展に伴って、地域社会も変革の時代を迎えています。そのため、持続可能な地域社会の実現に向けて、なぜ、グローバル人材が求められているのかをわかりやすく伝えました。		
2	教育	小林 修	国際連携推進機構	共通教育発展科目「環境ESD指導者養成」にて、SDGsに関する授業を担当	共通教育発展科目「環境ESD指導者養成」にて、SDGsに関する授業を担当（3科目2+4+4=合計10単位）しました。特に、SDGs-グローバル未来創成入門（2単位）	 	
3	教育	小林 修	国際連携推進機構	平成2年度教員免許状更新講習「国連SDGsの達成を目指した環境教育・ESD」を担当	平成2年度教員免許状更新講習「国連SDGsの達成を目指した環境教育・ESD」を担当しました。非同期型のオンラインコンテンツを録画編集し、対面授業を2回実施提供しました。	 	
4	教育	小林 修	国際連携推進機構	東温市役所主催とうおん子ども科学&環境会議の講座を担当（3回）	東温市役所主催とうおん子ども科学&環境会議として、東温市内の小学5年生を対象に環境講座「耳を澄ませば～年輪が語りかけること～」を担当しました。（2コマ×2回）。6月29日（火）東温市立東谷井小学校、東温市立北吉井小学校	 	
5	教育	小林 修	国際連携推進機構	附属高校文部科学省採択事業WWLコンソーシアムSDGs教員研修会での講評	附属高校文部科学省採択事業WWLコンソーシアム構築支援事業「高大連携の国際化を通じたSDGsグローバル人材の育成」の教職員向けにオンラインによるSDGsに関する教員研修会に出席し講評を行いました。	 	
6	教育	小林 修	国際連携推進機構	附属高校高大連携事業「グローバルスタディーズ I 環境教育（実習）」の授業を担当	附属高校高大連携事業「グローバルスタディーズ I 環境教育（実習）」の授業2コマを担当しました。 授業名は、「高校生として、今すぐ、取り組む「SDGs」～足元から世界とつながる方法～」	 	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
7	教育	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛大学高大連携事業として 宇和高校にSDGs特別講義を 提供 (3回)	愛媛大学高大連携事業として宇和高校にSDGs特別講義を提供しました。(3回) 2021年5月27日, 6月10日, 2021年10月21日	   	
8	教育	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛大学高大連携事業として SDGs特別講義を実施	愛媛県立今治北高校 (2021年4月28日)「世界共通のゴール「SDGs」の達成に向かって～Withコロナ時代に足元から世界とつながる!～」	   	
9	教育	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛県立松山東高校文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)事業の2年生と3年生の課題研究を担当	愛媛県立松山東高校文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)事業の2年生と3年生の課題研究を担当しました。課題研究名は「Beyond SDGs 2030 - SDGsから見た世界各国の今と、2030年以降の私たちの暮らし」。(1回2コマ, 年間20回担当)	 	
10	教育	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛県立松山東高校文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)事業の課題研究を担当	愛媛県立松山東高校文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)事業の特別講演を実施しました。課題研究名は「世界共通のゴール「SDGs」の達成に向かって～Withコロナ時代に足元から世界とつながる!～」。	 	
11	教育	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛大学高大連携事業として 宇和島南中等教育学校に SDGs特別講演	宇和島南中等教育学校にて「いま、なぜ「SDGs」? ～Withコロナ時代に足元から世界とつながる!～」と題して、講演を行いました。	 	
12	教育	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛大学高大連携事業として 新田高校にてSDGs特別講義 を2回実施	新田高校にて「SDG 12: つくる責任 つかう責任 グローバルサプライチェーンの不都合な真実」, 「化石燃料の負の連鎖を断ち切るには?」と題してSDGs特別講義を行いました。	   	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
13	教育	小林 修	国際連携 推進機構	大阪教育大学附属池田中学校にてSDGs特別講義	大阪教育大学附属池田中学校にて「VUCA時代に備えて、頼られる人になる！～SDGs時代に、求められる力～」と題してSDGs特別講義を行いました。	  	
14	教育	前田 眞	社会連携 推進機構	やわたはま銀座バスケット／休日 こどもクラブ	やわたはま銀座バスケットでは、子ども、子育て世帯が安心できる居場所を作るため学童保育の需要が高まる特定の期間（夏季、冬季、学年末・学年始休業や一次産業等の繁忙期）をカバーし、豊かな教育プログラムを児童へ提供している。そのプログラムの一つとしてSDGsに関する学びの提供を行いました。	  	 やわたはま銀座バスケット
15	教育	坂本 世津夫	社会連携 推進機構	宇和島市「高校生まちづくり課」プロジェクト	「若者が地域に残れる、帰れるまちづくり」をテーマに、市内高等学校の生徒で構成する「高校生まちづくり課」を立ち上げ、カフェ形式によるワークショップで提案がなされたアイデア（うわじま圏域ビジョンマップ、九島ネーランド構想）の事業化を図るなど、活動を展開しています。高校生が自分たちのまちの将来を考え、直接まちづくりに参画することで、若者が活躍できる場所を提供し、地域との関わり合いと誇りを持たせて、郷土愛を醸成することを目的としています。		宇和島市「高校生まちづくり課」プロジェクト
16	教育	坂本 世津夫	社会連携 推進機構	宇和島南グローバル・イノベーション(UGI)事業	「宇和島南中等教育学校では、令和2年度より独自の取組として、地域の大切な良さや重要な課題に気づき、それらの活用や解決に地域の人々と協働しながら取り組むことができる人材や、グローバルな視点から地域産業の活性化や活気ある街づくりに貢献できる、地域の未来を創造し地域を担う人材の育成を目指した「宇和島南グローバル・イノベーション(UGI)事業」に取り組んでいます。まちづくりコースで、持続可能なまちづくりについて指導を行っています。		
17	教育	坂本 世津夫	社会連携 推進機構	西予開成塾	西予市から、次代を変えることのできる人財の育成を目指し、天才児教育（創造性教育）・スーパーキャリア教育を実施し、今までにない「人材育成の仕組み」を構築することを目的に事業を実施しています（末光家住宅を活用）。今年度は、SDGsのカリキュラムも設定しました。		西予開成塾

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
18	教育	和田 寿博	法文学部	中島のSDGs推進の調査 (2021年7月)	<p>目的：中島のSDG推進を把握し、学生にできることを提起する。</p> <p>対象：(1) 島寿会のSDGs推進ーグリーン・スロー・モビリティ (GSM) を活用した福祉事業ー</p> <p>(2) Stucation (≒Worcation)：ほしふるテラス姫ヶ浜海の家での文献検討</p> <p>(3) 学生のSDG s 推進海岸：清掃と再生可能廃棄物</p> <p>成果：(1) SDGs推進にあたっての課題は山積状態だが、産・学・民・官・金は変わりつつある。</p> <p>(2) 企業と行政の連携および企業間の連携によるSDGs推進を重視する必要がある。</p> <p>(3) SDGs推進に関わらず、「学ぶ機会」は教育機関だけではなく、社会人になってからの学び直し (リカレント教育) が必要となる。</p> <p>(4) 松山市はSDGs未来都市、自治体SDGsモデル事業に選定され、更なる発展と動向に期待、今後も注目していく必要がある。</p> <p>(5) 大学生もコロナ禍に抗しながら、SDGs推進を検討・実践する必要がある。</p>	        	「中島のSDGs推進の調査」報告(2021年7月)
19	教育	和田 寿博	法文学部	学生のSDGs研究	<p>私が担当する公共政策課題研究 (いわゆるゼミ) の受講生は、SDGsの理解と実践に関する研究に取り組み、2021年7月、「松山市中島のSDGs推進の調査」を実施し、年度末に研究レポートを作成した。ここでは受講生のSDGsの理解と推進および地方創生 (ひと・しごと・まちづくり) をふまえた研究主題を紹介する。</p> <p>「多様な人材による個人開発スマートホンの開発と調査」</p> <p>「障害者雇用と働き方改革推進」</p> <p>「地域で子どもを育てる環境づくり」</p> <p>「自動車燃料と自動運転技術の転換」</p> <p>「脱炭素社会の構築とエネルギー転換」</p> <p>「西条市の魅力と移住促進」</p> <p>「逆参勤交代による働き方改革と地方創生」</p>	        	


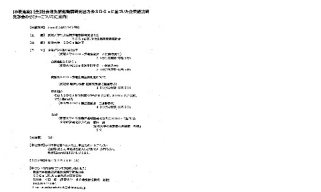
No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
20	教育	向 平和	教育学部	四国エネルギー教育地域会議での活動	四国エネルギー教育地域会議の委員として地域のエネルギー環境教育の推進に寄与した。令和3年度四国エネルギー教育地域会議四国地域セミナー（テーマ：SDGsとエネルギー教育）では講師を担当し、「中学校におけるICTを活用した協働的なエネルギー環境教育の実践～産学及び学校間連携を通して持続可能なエネルギー社会の探究～」というテーマで附属中学校の実践事例を紹介した。	  	SDGsエネルギー学習推進ベースキャンブ
21	教育	向 平和	教育学部	ESD概論	教育学部独自科目として「ESD概論」を開講している。本学、竹下浩子先生、森貴子先生、藤原一弘先生とオムニバス形式で実施している。環境教育に関する内容はもちろん、食育から社会学、学校教育の実践まで幅広い実践的な内容で実施している。	  	
22	教育	向 平和	教育学部	SDGsに関する国際交流	環境教育実践演習の講義にて、ナイジェリアとのオンライン国際交流を行った。相手国はオンラインの環境もあまり整備できていないので動画を作成し、YouTubeにアップしての交流となった。	  	  
23	教育	向 平和	教育学部	SDGsに資する子ども向け科学講座の実施	松山自然科学教室においてフクロウのペレットの解剖から環境を考えるという内容で実施した。自然科学教室が発行している「愛媛の自然」において本学SDGs推進室の活動についても報告した。	  	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
24	教育	富田 英司 井上 昌善 藤原 一弘 竹下 浩子	教育学部	教育学部・附属小学校の児童によるプラスチックゴミ削減活動	文部科学省「学力向上のための基盤づくりに関する調査研究」の一環として教育学部と附属小学校がおこなっている「プラゴミ激減プロジェクト」において、附属小学校の児童6名が教育学部学生をサポートを受けながら、プラスチック問題の研究活動に取り組みました。活動では、分解可能なプラスチックの強度測定や、分解された水での植物の成長の比較実験などを行った他、2月23日には参加者120名のオンライン上での映画の上映会と報告会を行いました。	4 質の高い教育をみんなに 17 パートナリシップで目標を達成しよう 14 海の豊かさを守ろう	
25	教育	竹下 浩子 笠松 浩樹 ルブレト クリストフ 島上 宗子 小林 修	教育学部 社会共創学部 国際連携推進機構	エディブル・キャンパスの実践	城北キャンパスの一角にある空き地で可食植物を栽培しています。落葉菜などを堆肥にする資源循環、化学肥料や農薬の不使用、在来種の活用、キャンパスの鳥類観察による生物多様性の把握などを授業の一環として進めています。将来的には、キャンパス内で収穫した野菜の販売や食堂での利用も展望しています。また、「さくら幼児園」（伊予市）でもエディブル・キャンパスが展開されており、2021年に情報交換や勉強会を行いました。	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナリシップで目標を達成しよう	
26	教育	榎原 正幸	社会共創学部	地域の人々と考える持続可能な未来地域社会（社会共創学部・プロジェクト基礎演習・実践演習・応用演習）	社会共創学部が開講しているプロジェクト基礎演習・実践演習・応用演習において、SDGsの理念を理解しつつ、愛媛県で唯一の「四国西予ジオパーク」の活動と地元の人々との関わりを通じて、持続可能な未来可能性のある地域社会の在り方を、地元の人々、西予市職員および学生と一緒に考え、実践的に課題解決に取り組んでいます。	11 住み続けられるまちづくりを 14 海の豊かさも守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	
27	教育	井口 梓	社会共創学部	大学生と高校生の協働による東予歴史文化魅力発信プロジェクト—えひめ東予・瀬戸内LINKプロジェクト—	愛媛県東予地方の県立高校5校と大学生が連携し、地域の文化資源の継承・活用の課題について1年間議論し、各地の環境と関連付けたフィールドワークを実施してデジタルポスターの制作に取り組みました。その成果の一部は、全国エコツーリズム学生シンポジウムにて「着地型SDGs教育観光プログラムにおけるエコツーリズムの可能性」と題した招待発表、及び「大学生観光まちづくりコンテスト2021」での観光まちづくりプラン（総合2位・クリエイティブ賞を受賞）として発表しました。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくばないで、循環しよう	 東予歴史文化協議会
28	教育	山中 亮	社会共創学部	地域のSDGsの取り組みを知ろう	地域のSDGsに関する取り組みを調査し、学生の視点から自分たちも関わられる取り組みを提案する、フィールドワークを中心とした活動を行った。具体的には、松山市の取り組み、「中島スマートアイランド構想」について現地調査を行い、フィールドワークによって明らかとなった地域のリソースを活かした、健康活動イベント（カラーラン等）の実施の提案を行った。	3 気候変動に具体的な対策を 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 14 海の豊かさも守ろう	中島SDGs視察レポート～私たちがみた中島のこれから～ "愛媛"で考える"SDGs×ウェルビーイング"カンファレンス～Personal & Globalな視点から、私たちが今考え行動すること～ プロジェクト発表20220126SDGs

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
29	研究	西村 勝志	社会共創学部	地域社会で求められるグローバル人材とその能力・スキルについて - 愛媛県を参照事例として -	持続可能な地域社会を目指すために、愛媛県という地域で求められる人材についての能力・スキルをテーマにすることで、SDGsアクターとしての能力・スキルを究明したものです。		
30	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	SATREPSマラウイ統合資源管理プロジェクトにおける国際共同研究開始	JST-JICAの地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) で、愛媛大学が研究代表機関となり、日本とマラウイの9大学・機関が参加して5年間の予定で進めている「マラウイ湖国立公園における統合自然資源管理に基づく持続可能な地域開発モデル構築プロジェクト (IntNRMSプロジェクト)」の国際共同研究が、2021年6月に開始されました。SDGs推進室の客員研究員である草苺康子さんが、長期在外研究員としてマラウイで活動しています。	   	IntNRMSプロジェクト SATREPS プロジェクト紹介
31	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	SATREPSマラウイ統合資源管理プロジェクトにおけるフィールド訪問	JST-JICAの地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) 「マラウイ統合資源管理プロジェクト」の正式開始を受けて、8月と10月にフィールド訪問と予備的調査を実施しました。COVID-19感染拡大の中で各大学およびJICA・JSTの許可を得て実施したもので、愛媛大学、横浜国立大学、東京農業大学の研究者がマラウイ湖国立公園のチェンベ村を訪問し、農業・水産資源管理、自然保護区管理などに関する地域のイノベーターとの協働を深めました。	   	intNRMSプロジェクト
32	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	SDGs関連活動の自己評価と改善のためのMSC手法に関するセミナー開催	SDGs関連の研究や活動を、私たちはどのようにして自己評価し、改善していけばよいのでしょうか？ マラウイIntNRMSプロジェクトとSDGs推進室が、プロジェクト評価の手法であるMost Significant Change (MSC) を改良して参加型自己評価に応用なさっている北村健二さん (金沢大学/能登SDGsラボ) をお招きして、2021年12月15日にオンラインセミナーを開催しました。多様な主体が参加して研究や活動の社会的インパクトを自己評価し、改善していく手法を議論しました。		
33	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	マルチスピーシーズ持続可能性という新しいアプローチに関するセミナー開催	SDGsが目指す持続可能な未来に向けた社会の転換には、これまでになかった新しいアプローチが必要です。SDGs推進室はIntNRMSプロジェクトとの共催で、社会共創学部のクリストフ・フルベヒトさんを講師に迎え、持続可能性を考える新しい視点としてのマルチスピーシーズ持続可能性の考え方や、そのSDGsへの応用について、エディブルキャンパス活動を中心に考えるセミナーを2022年3月14日に開催しました。さまざまなSDGs関連活動に新しい視野を開くことが期待されます。	  	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)	
34	研究	小林 修	国際連携推進機構	Withコロナ時代に対応したグローバル・サービラーニングの開発と教育効果に関する研究	Withコロナ時代に対応したグローバル・サービラーニングの開発と教育効果に関する実践的研究を実施しました。(科研費採択)	 		
35	研究	榊原 正幸	社会共創学部	水銀のない社会を目指して(総合地球環境学研究所との共同研究)	総合地球環境学研究所におけるプロジェクト実践研究のリーダーとして、愛媛大学の教員・学生と協働して、「水銀のない社会」を目指して、インドネシアおよびミャンマー、さらにはアセアン諸国や世界の様々な国・地域の人々と連携して実践研究を行っています。特に、「零細小規模金採掘」と呼ばれる貧困問題を背景とする開発途上国の人々がやっている違法な活動による水銀汚染を削減する研究に取り組んでいます。	     		
36	研究	松村 暢彦	社会共創学部	マイ・タイムライン防災学習を通じた家庭内コミュニケーションの変容	野村小学校6年生の総合的学習の時間にマイ・タイムラインを使った防災学習を通して市民的資質を高める学習プログラムを実施した。その結果、家庭内のコミュニケーションの活性化によって自己効力感、集団効力感を高めることをアンケートを通して明らかにすることができた。	  	 	
37	研究	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	ゲームの力で、持続可能な未来のための先見的ガバナンスへ	ゲームは、持続可能な未来のための新しいガバナンスシステムを想像し、実験する可能性を提供する。持続可能な未来に向けた先見的なガバナンスのためのゲームの可能性をオランダと日本の比較研究で、ガバナンスの文化、ゲームを用いた参加型未来探索の機会、ゲーム業界の可能性と特徴などを探り、社会全体的な視点やゲームの可能性を限定する要素を検討する。	 	地球システムガバナンス	
38	研究	武部 博倫	大学院 理工学研究科	太陽電池パネルガラス廃カレットを用いたゴールドルビーガラス(Gold Ruby Glass: GRG)の作製と愛大ノバルティグッズ試作	太陽電池パネルガラスのリサイクルカレットを利用して、赤色金コロイドガラス(Gold Ruby Glass: GRG)の作製に成功しました。GRGは 道後温泉本館 振鷲閣の窓材に使われています。現在、GRGを用いて、Tシャツ、パーカーウェアとバッグハンガーの試作に取り掛かっています。	  	 	材料スコープ工学 研究室 TECHNICAL REPORT

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
39	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	持続可能な道後温泉協議会の会長	持続可能な道後温泉協議会は、道後温泉地域全体のSDGsの取り組みを推進する「持続可能な道後温泉協議会」で、愛媛大学が主体となり、地元団体や行政が経費を負担しながら連携し、ひみつジャナイ基地を活用しながら、持続可能な道後温泉に向けて取り組むものです。その会長として活動しています。	  	
40	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	松山市SDGs推進協議会の会長	内閣府によるSDGs未来都市に選定された松山市SDGs推進協議会は、経済・社会・環境の3側面の統合的取組による相乗効果の創出をもたらすべく、多様な会員企業との連携の下、自律的好循環を構築するモデル事業などを推進しています。この協議会の会長として活動しています。	  	
41	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	西条市SDGs推進協議会の会長	西条市は、令和3年度にSDGs未来都市及び自治体モデル事業として選定されたことから、SDGs推進協議会を立ち上げました。この協議会は、人口減少及び少子高齢化が急速に進展する中、多様な関係主体が参画して切磋琢磨することを通じて未来に向けた競争力を強化するとともに、相互に連携して「持続可能な西条市」の実現に向けた各種課題の解決を図るものです。この協議会の会長として活動しています。	  	
42	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	上人坂を考える会のメンバーとして活動	道後温泉地区にある上人坂は、一遍上人にゆかりのある宝厳寺のある坂で、歴史から見て由緒あるエリアであるところから、地域観光の起爆剤としてその活用を検討する会であります。そのメンバーの一人として活動しています。	  	
43	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	“愛媛”で考える “SDGs×ウェルビーイング”カンファレンス ～ Personal & Globalな視点から、私たちが今考え行動すること～	オープニングとして、20分の講演を行いました。その内容は、wellbeingとは何か、そして、国や自治体・地元企業・従業員の観点からwellbeing向上といった取り組みです。		

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
44	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	「地球環境情報展 in 道後温泉」の開催	国連環境計画（UNEP）は活動の一環として、1991年より世界最大規模の「UNEP世界環境フォトコンテスト」を開催してきております。「Focus on Your World（身近な地球環境へのフォーカス）」をテーマに、すべての国連機関からの協力を得て、これまでに全世界169カ国・12万点以上もの“地球の今の姿”を捉えた素晴らしい作品が集まっています。地球環境情報展は、過去に開催されたUNEP世界環境フォトコンテストの受賞作品の数々を、多くの人々に見てもらうために巡回展示しているものです。この情報展を、令和3年12月から令和4年3月まで道後エリアで開催しましたが、その実施責任者として活動しました。	  	
45	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	国連大学SDG大学連携プラットフォームへの参加活動	プラットフォームの狙いは、国連大学サステナビリティ高等研究所が主体となって、SDGsに積極的に取り組む意欲ある大学と連携し、国際経済社会の動向を踏まえた大学の取組み（人材育成も含め）を総合的に強化し、国内外に発信するための基盤づくりをすることにあるとしています。これに参加することで、他大学の活動を参考にするとともに、大学間連携で新たな試みを実施することができます。	 	
46	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	社会連携推進機構研究協会のSDGsに基づいた企業経営研究部会のセミナーでの講演	「企業経営を取り巻く背景」をテーマにした講演です。1980年代から企業を取り巻く環境変化は著しいものがあり、日本独自の人口減少問題や地球温暖化などの世界共通の問題、さらにはグローバル化、情報通信技術（IoT）の進歩、人工知能（AI）の開発、デジタルトランスフォーメーション（DX）などSociety5.0の時代の到来といった企業経営の環境変化を取り上げています。	  	
47	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	愛媛ジャーナル11月号への記事投稿（地域から世界へつなぐ世代を超えた持続可能な社会づくり）	2021年4月に愛媛大学が仁科弘重学長の下で新体制となったことを受けて、統一したテーマ「地域から信頼され愛される愛媛大学を目指して」の中で、第6回目として記事を投稿したものである。その内容hあ、SDGs推進室のこれまでのSDGs活動とその成果について明らかにするとともに、社会との連携における今後のSDGs活動について示したものである。	  	
48	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	愛媛ジャーナル1月号への記事掲載（「国立大学法人愛媛大学特別座談会SDGs、ダイバーシティ、大学広報を語る」）	愛媛ジャーナル2021年1月号では、「国立大学法人愛媛大学特別座談会SDGs、ダイバーシティ、大学広報を語る」というテーマの中で、学長を座長として、ダイバーシティ担当堀利栄副学長及び広報担当今村健志副学長とともに、各分野の取組について語った。とりわけ、SDGs担当副学長として、SDGsの重要性や社会的意義、愛媛大学として目指す方向性について話をさせていただいた。	 	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
49	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	愛媛ジャーナル3月号への記事投稿（持続可能な地域社会や国際社会の実現を目指して―大学と地域ステークホルダーとの連携協働における新たな取組み―）	連載の第一弾であることから、今回の内容は、まずはSDGsとは何かというテーマを出発に、なぜ必要とされているのかを示すとともに、SDGsに対して愛媛大学がどう関わるべきかとした愛媛大学の社会的ミッションを明らかにしたものです。	  	
50	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	松山商工会議所の所報（記事掲載）	①自身の経歴、②大学組織としてSDGsに関するこれまでの活動、③SDGsに関する今後の活動について、取材を受けた。		
51	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	「えひめSDGsアワード2021」の審査員活動	愛媛県が主体となっている「えひめSDGsアワード2021」は、地元企業が実施しているSDGs活動に基づいた申請内容を様々な観点から一定の評価項目によって審査するものです。		
52	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	西条市SDGs推進協議会の会長SDGs推進協議会キックオフシンポジウムパネルディスカッション（コーディネーター）	西条市SDGs協議会は、令和4年1月に設立され、このたび、キックオフシンポジウムを開催する運びとなりました。基調講演をはじめ、地元高校生の地域課題研究の発表、そして「SDGs視点による持続可能なまちづくりと企業価値創造」をテーマに、250名程度の参加者が集うイベントとなりました。地元企業と金融機関そして、行政が一体となって持続可能なまちづくりに向けて、それぞれの特色強みを活かしつつ、自社の課題と社会の課題のすり合わせを行い、行政としての住みよいまちづくりと企業としての価値向上のための公民連携の在り方を示したものでした。	  	
53	社会貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	日本MAB計画連携大学間ネットワーク参加	日本各地のユネスコエコパークやその他のユネスコ関連プログラム（ジオパーク・世界遺産等）の登録地コミュニティと大学などの高等教育機関が連携して、登録地コミュニティの持続可能な未来を目指す取り組みである「日本MAB計画連携大学間ネットワーク」が、金沢大学を中心として2021年11月2日に設立されました。愛媛大学はSDGs推進室が中心となってこのネットワークに参加し、佐藤哲が設立発起人を務めています。	  	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
54	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	砥部町役場とのSDGs事業推 進について関連して職員研修を 実施	砥部町からの依頼を受け、砥部町職員向けのSDGs研修「いまなぜ SDGs？地域再生とSDGs行政職員としてSDGsを自分事化する」を実施 しました。(2022年2月25日)	  	
55	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	日本消費者学会関西支部オン ライン講演会「消費行動と二酸化 炭素の切れない縁を切る！ ～温室効果ガスの削減を先送り にするSDGsの活動に注意～」を 実施	日本消費者学会関西支部の依頼を受け、当団体総会後のオンライン講 演会消費行動と二酸化炭素の切れない縁を切る！ ～温室効果ガスの削減を先送りにするSDGsの活動に注意～」を実施しま した。(2021年8月21日)	  	
56	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛県生涯学習センターコミュニ ティカレッジ 現代・教養コース国 際理解講座を担当	愛媛県生涯学習センターコミュニティカレッジ 現代・教養コース国際理解 講座を「SDGsに学び、愛媛で模索する脱炭素地域社会の実現」を担当 しました。(2021年11月14日)	  	
57	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	松山市SDGs推進協議会の幹 事長として、運営に貢献	松山市SDGs推進協議会の幹事長として、各種会議に出席し、松山市 協議会事務局とr年型しながら、幹事会の幹事長として運営に貢献しまし た。	  	
58	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	松山商工会議所国際委員会に て「コロナ禍の踊り場から一段上 へ！オール愛媛で世界を呼び込 む！～やればできる！SDGs経 営、ダイバーシティ経営～」と 題して講演	松山商工会議所国際委員会にて「コロナ禍の踊り場から一段上へ！オー ル愛媛で世界を呼び込む！～やればできる！SDGs経営、ダイバーシ ティー経営～」と題して講演を行いました。	 	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
59	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	松山商工会議所SDGs経営研究会にて「グローバル人材の活用を通じて持続可能なSDGs経営企業に！～ダイバースになることで「グローバル」なSDGs経営を推進～」と題して講演	松山商工会議所SDGs経営研究会にて「グローバル人材の活用を通じて持続可能なSDGs経営企業に！～ダイバースになることで「グローバル」なSDGs経営を推進～」と題して講演を行いました。	 	
60	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	伊予市さくら幼稚園にて「園児と育む2030年の先にある未来」と題して教職員研修を実施	伊予市さくら幼稚園にて「園児と育む2030年の先にある未来」と題して教職員研修を実施しました。	  	
61	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛大学社会連携推進機構研究協力会にて「企業活動とSDGsSDGsを「やらねばならぬ」から「やればできる」へ」と題して講演	愛媛大学社会連携推進機構研究協力会にて「企業活動とSDGsSDGsを「やらねばならぬ」から「やればできる」へ」と題して講演しました。	 	
62	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	松山市SDGs推進協議会 & Well-being愛媛合同カンファレンス「"愛媛"で考える"SDGs×ウェルビーイング"カンファレンス～Persona & Glocal無し点から、私たちが今考え行動すること～」の企画、パネリストを担当	松山市SDGs推進協議会 & Well-being愛媛合同カンファレンス「"愛媛"で考える"SDGs×ウェルビーイング"カンファレンス～Persona & Glocal無し点から、私たちが今考え行動すること～」の企画、パネリストを担当しました。	 	
63	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	Waku Waku KIDS EHIME「子どものためのSDGs教室」にオンライン授業「美しい地球に暮らし続けたい！今こそできる大切なこと」を提供	Waku Waku KIDS EHIME「子どものためのSDGs教室」にオンライン授業「美しい地球に暮らし続けたい！今こそできる大切なこと」を提供しました。	  	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
64	社会貢献	小林 修	国際連携推進機構	テレビ愛媛「ハリキリ総研—SDGs 未来は何色?」にコメンテーターとして出演	テレビ愛媛「ハリキリ総研—SDGs 未来は何色?」にコメンテーターとして出演しました。	  	
65	社会貢献	前田 眞	社会連携推進機構	みんなでSDGsを学ぼうin松前ネットワーク	市民グループからの要請で、SDGsを学び、ゴールを達成するために日常生活を変える必要性について、自分たちで気づくための研修会を実施しました。	  	
66	社会貢献	前田 眞	社会連携推進機構	松山青年会議所市民シンポジウム	松山青年会議所が毎年実施している市民シンポジウムが、今年も昨年に引き続き新型コロナウイルスの関係で開催できないことから、代替として南海放送制作の番組を通して、SDGsについて学びの機会を提供しました。	  	 まつやま市民シンポジウム
67	社会貢献	前田 眞	社会連携推進機構	中小企業家同友会伊予松前支部例会	中小企業家同友会の伊予松前支部と環境経営委員会では、環境に配慮した企業経営を考えるために、再生可能エネルギーへのエネルギーシフトを議論しています。伊予市を舞台に10年後のありたい未来を語ると題して、地域の企業をはじめとする方々に、再生可能エネルギーについて学びと気づきを提供するための会議にパネルディスカッションのコーディネーターとして参加しました。	  	伊予市SDGs
68	社会貢献	中井 俊樹	教育・学生支援機構	SPODフォーラム2021	四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）は、四国地区の国公立大学・専門職大学・短期大学及び高等専門学校によって構成されている大学間ネットワークです。令和3年8月25日（水）～27日（金）にSPODフォーラム2021を開催し、「これからの社会と大学をつなぐSDGs」「教職員のための「事例から考えるハラスメント」～「ニューノーマル」に改めて考える～」「学生との関係から考える教職員の倫理」「地域連携担当者のための合意形成術講座」といったSDGsに関わるプログラムを提供した。	  	SPODフォーラム2021

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
69	社会貢献	阿部 光伸	教育・学生支援機構	SCVによる「未来の愛大生のためのキャリアデザイン・セミナー」等の実施	愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティア（通称「SCV」）では、190名余りの学生が、障害学生・留学生支援の他、キャンパス環境維持活動等様々な活動を展開しています。 その他、キャリア・サーバント・チーム（通称「CAST」）が、松山市次世代育成支援事業「自分デザイン・はじめの一步！」を対面と遠隔とのハイブリッドで開催し、未来の愛大生（高校生）に自己理解から始めるキャリアデザインのセミナーを開催しました。	  	 令和3年度松山市次世代育成支援事業  <ul style="list-style-type: none"> ▶ 学生向けの部会 (11月) ▶ 部会開催 (11月) ▶ 卒業生向け (11-12月) ▶ 愛媛大学で実施マップ 
70	社会貢献	向 平和	教育学部	えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム	えひめサイエンスリーダースキルアッププログラムを愛媛県教育委員会、愛媛県総合教育センター、愛媛県高等学校教育研究会数学・理科部会と協働で実施している。SDGsに資する高校生の課題研究発表も多く、発表会であるえひめサイエンスチャレンジ2021では約70の発表があり、高校生同士で情報を共有でき、さらなるSDGsの達成に貢献できる人材育成につながると考えられる。	  	えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム えひめサイエンスチャレンジ2021
71	社会貢献	竹下 浩子	教育学部	文部科学省主催の消費者教育フェスタで事例発表	2022年2月10日に開催された文部科学省主催の「消費者教育フェスタ in 東京」で、SDGsを軸とした消費者教育について愛媛県の事例としてオンラインにて発表しました。フロアからは、今春から始まる18歳成年年齢引き下げを見据え、SDGsを消費者教育の柱として進める愛媛県の事例は参考になるとの声をいただきました。	  	 令和3年度消費者教育フェスタ
72	社会貢献	松村 暢彦	社会共創学部	地域と協働した災害復興まちづくりの計画と実践	平成30年7月豪雨で被災した西予市野村地区で2019年5月から多様な主体がオープンに参加する「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」による復興計画づくりを継続して支援している。今年度は愛媛大学の学生が野村高校と連携して菜園共創プロジェクトを実施し、保育園や幼稚園などの地域の新たなつながりを創出している。	  	 
73	社会貢献	松村 暢彦	社会共創学部	がいなんよ大学 in のむら	愛媛大学社会共創学部、野村地域自治振興協議会、大阪大学大学院人間科学研究科が共同して一般社団法人NEOのむらを立ち上げました（各組織の頭文字をとったネーミングです）。その活動として、がいなんよ大学という大学と地域が連携してつくる市民の学びあいの場を作っています。セミナーや講習会、ワークショップなどさまざまな機会を通して、地域を盛り上げていく人材を育て、地域外の人や若い世代との交流することで、のむらの「きずな人口」を増やしていきます。	  	NEOのむら 

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
74	社会貢献	井口 梓	社会共創学部	内子町小田地区の木々のある生活景を活かした持続的なまちづくり	広く景観に対する意識の啓発をはかるために開催されている「愛媛県景観シンポジウム2021」にて、「文化資源と生活景」と題して内子町小田地区で森林資源を活かした景観と観光まちづくりに取り組んできた8年間の成果を大学生とともに発表しました。シンポジウムに先駆けて、地域が抱える課題や可能性を「地域固有の生活景」から考える活動の一環として、内子町立小田小・中学校にてかるたを用いて景観資源から持続的なまちづくりについて考えるワークショップを開催しました。	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう 12 つくる責任 つかう責任	
75	社会貢献	渡邊 敬逸	社会共創学部	西予市におけるツル・コウノリと共生するまちづくり計画	西予市で進めている「ツル・コウノリと共生するまちづくり計画」について、各種調査結果から地域住民や行政と共同で同計画の骨子に関わるビジョンを策定した。	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう	
76	社会貢献	渡邊 敬逸	社会共創学部	石鎚山系における生物多様性保全計画	石鎚山系における生物多様性保全について特にシカ害を中心とする各種調査や人材育成に取り組んだ。	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう	
77	社会貢献	菅原 卓也	農学研究科	柑橘果皮の有効による商品開発	愛南町との共同による、河内晩柑の搾汁残渣である果皮を有効活用した6製品を農学部で学生とともに開発し、試験販売した。果皮は、搾汁後の残渣として排出される一方、様々な保健機能成分を含有しており、機能性素材としても有効である。今後この取り組みをさらに発展させ、健康増進と資源の有効活用に貢献できる取り組みへと発展させたい。	3 持続可能な消費と生産 9 産業と地域革新の基盤をつくろう	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
78	国際貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	日本-ユーラシアSDGs研修コース(金沢大学国際機構)に参加	金沢大学さくらサイエンスプログラム「日本-ユーラシアSDGs研修コース(オンライン)」(11月15日~12月3日)に、講師として参加しました。これは各地のユネスコエコパークを題材に、自然と人間生活の調和に基づく持続可能な開発について学ぶもので、日本を含む9か国から35名の学生が参加し、オンデマンド講義とオンライン交流カンファレンスを通じて交流を深めました。愛媛大学からは社会共創学部学生1名が参加しました。	  	さくらサイエンスプログラム
79	国際貢献	小林 修	国際連携推進機構	台湾の台中科技大学応用日本語学科とSDGsに関するオンライン国際交流を実施	台湾の台中科技大学応用日本語学科とSDGsに関するオンライン国際交流を実施しました。	  	
80	国際貢献	小林 修	国際連携推進機構	愛媛大学SUIJIオンラインイベント「Beyond Borders: Revolution in international Xchange ---How far can we communicate online?---」をテーマに実施	愛媛大学SUIJIオンラインイベント「Beyond Borders: Revolution in international Xchange---How far can we communicate online?---」をテーマに2022年2月21日に実施しました。	  	
81	国際貢献	榎原 正幸	社会共創学部	プラスチック汚染解決に実践的に取り組む活動(インドネシア・国立ゴロンタロ州大学との協働)	開発途上国の多くは、いわゆる“プラスチック汚染”と呼ばれる深刻な環境汚染に直面しています。特に海洋の生態系への影響は深刻であり、最終的にこの問題は、食物連鎖の過程で私たち人間にも降りかかってきます。この活動は、インドネシア・国立ゴロンタロ州大学の教員・学生と一緒にプラスチック汚染に関する学習をして、ミャンマーのNPOの活動に学び、自分たちの問題としてプラスチック汚染を捉えなおし、実践的に問題解決に取り組もうとしています。この活動は、2021年1月から始まったばかりですが、長期的に継続する予定です。	 	
82	国際貢献	ルブレト クリストフ	社会共創学部	共生共栄の未来都市へ: 「Multispecies Cities」サイエンスフィクション短編集	よりよい未来を想像できなければ、無論、実現することも不可能。「Multispecies Cities: Solarpunk Urban Futures」(2021年 World Weaver Press出版)のサイエンスフィクション短編集では、日本SF作家藤井太洋を含む多様な著者が人間だけのものではない都市の在り方をアジア太平洋中心の物語で探る。	  	 多摩都市